

会議報告書

件 名	第 6 回常滑市中学校制服のあり方検討委員会
実施日	令和 4 年 8 月 19 日（金）15 時から 16 時 50 分
場 所	市役所 1 階 会議室 B
出席者	委員：青海中学校長、鬼崎中学校長、常滑中学校長、南陵中学校長 教頭会長、市 PTA 連絡協議代表、市 PTA 連絡協議会母親代表 市子どもを守る会連絡協議会長、教育長、教育委員 2 名 教育委員会（事務局）：教育部長、学校教育課長、学校教育課主査 マスターメーカー：名古屋菅公学生服(株) 2 名

1 委員長あいさつ

皆様、ご多用の中、また大変暑い中、お集まりいただき誠にありがとうございます。前回実施したプロポーザル審査会において、マスターメーカーが名古屋菅公学生服(株)様（以下、「菅公」）に決定いたしました。今後は菅公とともに、納得のいく仕様書の作成に向けて頑張っていきたいと思います。今回の検討委員会では、新制服導入までの今後のスケジュールを決定いたします。いかに児童生徒や保護者が関わって制服を決定していけるかがポイントとなります。

本日はマスターメーカーである菅公のお二人にもご出席いただいております。マスターメーカーと協力しながら、また、皆様の貴重なご意見を十分に参考にしながら、進めてまいりたいと思いますので、よろしくお願いします。

2 マスターメーカー紹介（菅公 2 名）

菅公 A：より良い制服のあり方について皆様と協議しながら、常滑市に根付くような制服を、皆様とともに作り上げていきたいと思いますので、よろしくお願いします。

菅公 B：主に知多半島全域を担当しております。新制服の検討でいうと〇〇市や●●市でお世話になっております。制服の決め方は市町によって様々です。よりよい制服にするために、少しでも皆様のお手伝いができればと考えております。

3 議題（資料に基づき説明）

（1）今後のスケジュールについて

- ・スケジュールは、マスターメーカーと事務局で協議しながら、改めて作成したもの。
- ・スケジュールにはブレザーの仕様書完成までの必要最低限の工程を記載。
- ・別途、マスターメーカーが追加で提案できる取組みを提示。
- ・ご意見をいただき、反映させてスケジュールを決定していきたい。

(2) 意見集約（アンケート）の実施について

- ・アンケートは、別途スケジュールの9月上旬に記載した「シンボルアンケート」のことを指す。
- ・事務局で案を作成したので、ご意見をいただき、アンケート内容を決定していきたい。

《ご意見・ご質問等》

【今後のスケジュールについて】

委員H：●●市の生徒会が関わった事例についてですが、生徒会サミットは、小学校と中学校のどちらの生徒会のことを指しますか。また、集まる時間はいつにしていたのでしょうか。

菅公：中学校の生徒会です。集まる時間帯は部活をしている時間帯です。

委員H：●●市の中学校は5校ありますが、中々集まるのは大変だったと思うのですが。

菅公：●●市の場合は、制服を検討するためではなく、元々5中学校で構成された「生徒会サミット」という組織があり、その議題の一つとして制服の検討をした形になるため、年間スケジュールで集まる日時は決まっていました。

委員H：常滑市の中学校にそのような組織があるのか私はわかりませんが、一から組織するとなると大変だと思いました。

菅公：私たちも常滑市でそうした組織があるのかは定かではなかったため、●●市の生徒会サミットについては、あくまで生徒を関わらせるための一つの事例と捉えていただきたいと思います。生徒会に関わってもらう方法、あるいは学校全体に意見を聞いて、この検討委員会に集約していく方法など、とにかく方法はいろいろあると思いますので、そこはご相談させていただき、臨機応変に対応できればと考えております。

委員長：生徒会サミットとは、5中学校の生徒会役員5～6名が一堂に集まった会ということですね。

菅公：そのとおりです。

委員長：ということは、仮に生徒会がその他の生徒に情報を下さなければ、生徒会メンバーのみの意見が反映されることになりますね。そのあたり対応の差はなかったのでしょうか。

菅公：正直、伝達の方法などは各中学校で異なっていました。ある中学校では、他の生徒全員の意見を集約していたり、ある中学校では他の生徒には情報提供のみを行い、生徒会のみで検討していたりなど、対応は様々です。しかし、そこは検討委員会メンバーとして校長先生もおりまして、各中学校での対応はその中学校での判断に任せる事になっていました。

委員長：常滑市には「生徒会サミット」なる組織がないため、一から組織するのは少々厳しいかもしれないですね。

委員 J：常滑市の場合はどのように進めるかですが、常滑市の中学校の生徒たちは実際のところどこまで関わりたいと思っているのでしょうか。鬼崎中学校の生徒は、前回独自に制服に関するアンケートを実施していたようですし、校長先生が感じる印象でも構わないのですが、どうでしょうか。

委員 A：生徒たちも制服が変わるといふところまでは理解していますが、どこまで関わるができるのかは当然わかっていない状況です。しかし、「ここまで関われることができる」ということがわかれば、しっかりと考えて意見を言うと思います。

委員長：他に何かございませんか。

委員 I：スケジュールの一番右の「保護者・生徒」について、アンケートの結果など、進捗状況を保護者に伝える機会があるといいと思います。

委員長：学校のホーム&School を利用すれば可能ではないでしょうか。

事務局：可能です。内容を精査しつつ、適宜情報提供したいと思います。

委員長：販売店の方は大丈夫でしょうか。

事務局：そちらの方も適宜情報提供していきます。

【意見集約（アンケート）の実施について】

委員長：確認ですが、このアンケートは対象が小4～中3となっており、これで意見集約を行い、その集約した意見によって菅公がデザイン画を作成し、再度生徒に周知するという流れになるのでしょうか。

菅公：生徒がどこまで関わるかが決まっていないため、このアンケートの内容も確定ではありませんが、イメージとしては意見集約した内容をもとにデザインし、またそれを生徒に周知していくという流れになります。生徒の関わるレベルについては、今後の議論によるところとなります。例えば、デザイン画を5案作成し、中学校で3案に搾ってもらい、その後その3案で小学校も含めて選挙をしてもらう等の方法も可能です。

委員長：このアンケートは、制服のことについて児童生徒に投げかける最初のものになります。アンケートは小中学校にあるタブレットでもできるので、校長先生には申し訳ないですが、学校で児童生徒を指導してアンケートを集約する流れになるのかと思います。その時に、このアンケートの回答が制服のデザインにつながることをしっかり示してあげないと、子どもたちはわからないと思います。アンケート実施の際には、子どもたちには仕様書作成までのゴールを示しておきたいと思います。

また、アンケートの内容についてですが、子どもたちに「どこまで関わりたいか」も聞いてほしいと思います。例えば、「デザインの募集を希望しているか」や「ワッペンありますか」など、そういった「関わるポイント」盛り込んで、子どもたちがどの程度関わりたいかがわかるようにしてほしい。

菅公：そうですね。それだと子どもたちの考えが一目瞭然になるので、今後の検討もしやすくなるのではと思います。

委員長：●●市はどの程度生徒が関わっているのでしょうか。

菅公：シンボルアンケートをもとに色や柄は私たちが示しましたが、そこから生徒会サミットでデザイン画を考え、複数案から選定しています。できたデザイン画は私たちの方でより精工にブラッシュアップして示したりはしていますが、基本的に生徒が決めています。ワッペンについても中学校ごとで異なったデザインになっていますが、そのデザインや選定についても生徒が行っています。その他、ボタンや素材・機能などは私たちが行っています。

委員長：つまり、子どもが関わったのは、「①シンボルアンケートの回答」「②シンボルアンケートに基づいた色や柄を使ったデザイン画の作成」「③菅公が加工したデザイン案を選定」「④わっぺんについてのデザインの募集」ということですね。これらの流れをアンケートで示してあげないと、「言われたからやった」ということになってしまう。この4つの工程について、校長先生はどのように考えますか。

委員D：生徒がデザインを決めるとは具体的にどういったことをするのでしょうか。

菅公：まず、そもそもブレザーとは何か、どういう色があるのか等の勉強会を開催し、その後シンボルアンケートを実施します。そのアンケートの結果による色や柄を用いて、色がないブレザーに色や柄を組み合わせでデザインを決めてもらいます。そして出来上がったデザインをもとに生徒会サミットで検討してもらうんですが、みんながそのブレザーを着ることを想像しながら、選定してもらいました。襟の形等ブレザーの形状から生徒が関わるというのは時間的にもコスト的にも厳しいものがありますので、「デザインを決める」は、色や柄を選定し組み合わせるものだと理解してもらえればよいと思います。

委員長：子どものことを考えると、可能であれば先進市町で決まったブレザーを取り寄せて、事前に学校の子どもたちに見せる場を設けてもらえればと考えています。校長室の前に一定期間展示し、実際に肌で感じるような形にしないと子どもたちはわからないし、実施すれば関心も高まると思います。可能であれば小学校も含めてお願いしたいのですが、どうでしょうか。

菅公：承知いたしました。ただし、全校に同時に置くことは難しいのでローテーションを組んでという形でお願いしたいと思います。

委員 I：アンケートについてですが、委員長の言う通り、アンケートの目的を示すことは必要だと思います。また、内容についてですが、常滑のイメージを回答する箇所について、選択肢が少ないのが気になります。例えば、市長が別の会議で常滑のイメージの一つとして「のり」と言っていましたし、他に「祭り」「山車」もあるし、もう少し増やした方がいいと思いました。あと、「7 現在の制服で改善してほしい点があればご記入ください」の間は、特に必要がないのではないかと思います。

委員 F：子どもたちにどこまで関わらせるかは重要なことです。特にデザインを考えると、今の中学生にできることは色や柄を選別し組み合わせるくらいだと思うので、そういう意味で最初のシンボルアンケートは重要だと思います。再度取り直すことなく、最初の段階でしっかり聞いた方がいいと思います。

委員 J：アンケートの「3 性別」についてですが、ジェンダーレスの関係で削除した方がいいと思います。また、子どもたちが何がしたいのかが把握できるようなアンケートにしてほしいと思います。

事務局：●●市では性別の項目はあったのでしょうか。

菅公：性別の項目は記載されていません。

事務局：今回はキュロットなどについて聞くわけでもないですし、この項目は削除することにします。逆に、「4 常滑のイメージ」は、祭や山車、のりなど、皆様のご意見を踏まえて追加したいと思います。先日の市民会議では「伊勢湾に浮かぶ夕日」というものもありました。

委員長：たしかに「4 常滑のイメージ」は重要なので、他に何かございましたら、ご意見をいただけると有難いです。子どもの発想だと、招き猫はトコタンのイメージだと思います。「トコタン（招き猫）」の方がいいと思います。

委員 F：最初の「常滑焼」は、「やきもの」にした方がいいと思います。

委員 B：たしかに「常滑焼」だと、表現が固いように感じます。

菅公：子どもたちのイメージがわからないといけないので、他の市町だと質問の下に写真を載せるなどしていました。

委員長：写真は準備することはできるでしょうか。

事務局：たいていは秘書広報課に素材があると思います。

委員長：それでは写真を入れ込む方向でお願いします。項目としては、「常滑焼」「空港」「海」「トコタン（招き猫）」「豊かな自然」「のり」「夕日」「やきもの散歩道」「祭」「その他」というところでしょうか。この中から2つくらい選ぶという形でどうでしょうか。

委員 F：子どもたちだと、最初の選択肢に○をうつ可能性があるので、順番はあいうえお順でどうでしょうか。

委員長：それでは「あいうえお順」ということにしましょう。それと「8 その他」の項目はいるでしょうか。

事務局：事務局としては、夏服のことが気になっていた部分なので、夏服のことを聞くということでどうでしょうか。

委員長：自由記述にするとまとまらないため、ワイシャツ、ポロシャツの2択にするなど、選択肢にした方がいいと思います。

菅公：ネクタイとリボンをつけるか否かは、どの市町でも課題に挙がっていました。子どもからすると、物珍しさで付けたいと回答する場合がありますが、一方で学校からすると校則を作ることや指導をすることが難しいという課題があります。ですので、最初のアンケートでそのことを聞いておけば、今後の検討しやすくなるのではと感じています。●●市は各中学校におまかせになり、中学校ごとで仕様が違うという状況になりました。

委員 I：アンケートの対象が小学生も含むので、アンケートに載せてもわからない可能性があります。

委員長：参考程度にした方がいいような気がします。サンプルで展示してそれを見せてからアンケートを実施するという流れがいいと思います。特に小学生はそこ方がいいと思います。

事務局：アンケートは9月上旬からですが、展示をする時間はありますか。

菅公：スケジュールはあくまでも予定なので可能ではあります。

事務局：ネクタイ、リボンについてですが、メリット・デメリットは何かですか。

菅公：メリットはフォーマル性が高まることです。よりスーツライクな感じのものになります。また、将来スーツは必ず着ることになるので、中学生の時からそれが学べるというところがメリットかなと思います。デメリットについては指導面です。結ぶタイプとワンタッチ式があるのですが、なくしたり、汚したり、他の人のものと入れ替わったりということが起こりやすいです。

事務局：結局アンケートで、いるか否かだけでは、子どもはわからないので、その辺りを補記できれば、少しは伝わりやすいのかなと思いますので、また、アンケートの内容についてはご相談させてください。

菅公：承知いたしました。

委員長：最終的なアンケートは各委員に示すことはできますか。

事務局：完成したものを各委員に紙媒体で郵送させていただきます。

【仕様書公開の時期について】

菅公：一つ確認なのですが、現在令和5年3月に仕様書公開となっておりますが、私たちはそれに併せてスケジュールを組ませていただいておりますが、この3月という時期柄はメーカーにとって採寸の一番の繁忙期で、仕様書を公開し、説明会を開催したとしても、どこも対応できないのではないかと懸念点があります。仕様書の公開を何でするのかというと、常滑市内の販売店がこれまで取引のあるメーカーに対して、「新しい制服の仕様書はこうなったので、この仕様書の範疇で製造してください」と説明する必要があるからです。そして、それを令和6年4月に間に合わせるようお願いする形になるので、必ずしも令和5年3月でなくてもいいのではと考えます。3月に説明会を開いても誰も来なければ意味がないため、スケジュール調整が必要だと考えています。

委員長：令和5年3月にしたのは理由がありますか。

事務局：販売店からの意見を聞いたらなるべく早くという意見でした。

委員長：このことについて販売店に確認することはできますか。

事務局：できると思います。

菅公：仮にスケジュールの工程の中で、結論が出なかったりした案件があるとスケジュールがきつくなってしまうので、無理のない組み方をした方がいいのではと思います。

事務局：スケジュールをずらして年度をまたぐと、検討委員会のメンバーも変わることになりますし、元々が令和4年度内で仕様書の公開となっているので、メーカーや販売店が都合が悪ければ説明会は後日にずらすことはありかもしれませんが、あくまでも仕様書の公開は3月とした方がいいと考えています。早く知りたいと思う販売店もいますので、説明会のみを後日にすることはできないのですか。

菅公：説明会をしないとなかなか理解できないかと思います。一番聞かれるのは色や柄について、あとは他メーカーが製造した制服をだれが審査し判断するのかという点です。●●市の場合は、キューテックという第3者機関に委託してマスターメーカーの仕様書と他メーカーが作った仕様書を審査してもらっています。一目見ればわかるというものではないです。

事務局：また、スケジュールについては相談させてください。

委員Ⅰ：一つ厳しいことをいいますと、マスターメーカーを菅公に決める際に、プロポーザルの仕様書の中で令和5年3月と記載されています。あくまで案ではありますが、企業としてそこはできる限り目指すスタンスで行くべきだと思います。

菅公：もちろん、その通りです。令和5年3月の仕様書公開は可能です。ただし、懸念点もありますというご意見としてとらえていただけ

ればと思います。申し訳ございません。お伝えしたかったのは、しっかりと仕様書の公開と説明をしないと、結果的に参入できないという事態になるといけないので、販売店に確認をとっていただけだと有難いと考えています。

事務局：説明会は1回ですか。

菅公：1回です。

事務局：例えば、今はコロナによってオンラインが当たり前になりつつあります。YouTube 配信などの対応も考えていただけると有難いです。

菅公：承知しました。

委員長：今の委員の皆様は、基本的には3月31日までの任期なので、仕様書を完成させることが責務となります。説明会については参入メーカー・販売店の意向をくんでずらすことは検討していくということをお願いします。

3 その他

《次回 第7回常滑市中学校制服あり方検討委員会》

令和4年9月30日（金）午後3時00分 市役所1階会議室F

<補足>

検討委員会後、菅公・中学校長・事務局とで他市町のブレザーの展示について確認したところ、日程的に全学校で展示することが困難であることが判明したため、アンケート時に画像などでわかりやすく示すこととした。